

稲庭うどん作りに挑戦！

台湾の小中生、湯沢を訪問



ゆで上がった稲庭うどんを鍋から取り出す台湾からの小中学生たち

台湾の小中学生 4 人が 17～23 日の 7 日間、湯沢市を訪れている。市と台湾の交流事業の一環。21 日には稲庭うどんの製造体験や酒蔵見学を行い、市の伝統文化について理解を深めた。

台湾北西部に位置する新竹県の坪林国民小学から 2 人、峨眉国民中学から 2 人が訪れている。4 人は市に到着してから、

湯沢東小と湯沢北中で社会や音楽などの授業を受けたほか、稲川スキー場でスキーを体験した。

21 日は同市稲庭町の佐藤養助商店「別館 養心庵」で稲庭うどん作りに挑戦した。職人がお手本を示した後、あらかじめ細く練られた生地を両手でよりながら 2 本の棒に巻き付けていく「手ない」の工程を体験。続いて用意されていた乾麺をゆでて、8 の字を描くようにきれいに盛り付けて味わった。

峨眉国民中学 1 年のツェン・チェインシーさん(12)は「元々うどんが好きなので作って食べる一連の流れを体験できて満足」と話した。

この日は秋田銘醸(同市大工町)も訪れ、酒蔵を見学した。きょう 22 日は横手市のふるさと村や、羽後町の西馬音内盆踊り会館を訪れる予定。(館岡朋美)

(令和7年1月22日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)